




あなたのスキルは社会に役立つ

エンジニアだからできる社会貢献

東日本大震災の発生直後に発足したHack For Japanや「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーを始めとして、日本各地で技術を活用した社会貢献活動が行われています。本連載では、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアだからできる社会貢献」の取り組みをお届けします。

第147回

たとえば「ドラ娘システム」をアップデートしてみよう～テックコミュニティとジェンダー～

●今村 かずき (いまむら かずき)  @kaizumaki
●古川 泰人 (ふるかわ やすと)  @yfuru2454
●武貞 真末 (たけさだ まみ)  @mamisada

アプリやOSのアップデートをするように、令和の時代は社会や考え方についても日々アップデートしていく姿勢が求められています。今回はテクノロジー分野でのジェンダーに関する潮流にスポットを当てて、私たちにできそうなアップデートを提案していきます。

今どきのジェンダー

近年、子どもたちが触れるジェンダー観は変化しつつあります。たとえば2018年のアニメ『HUGっと！プリキュア』では、「女の子だってヒーローになれる」「男の子だってお姫様になれる」という台詞が登場したり、シリーズで初めてプリキュアに変身する男の子キャラクターが登場したりなど、「性的な役割（ジェンダーロール）」に一石を投じて注目を浴びました。

国際社会では、2016年に韓国の現代女性の生きづらさを描いた小説『82年生まれ、キム・ジョン』^{注1}がベストセラーになり、映画化もされました。また同年、アメリカ大統領選の敗北演説にてヒラリー・クリントン氏が「ガラスの天井」^{注2}について発言し、ジェンダーをめぐる障壁の存在を示唆しました。

日本国内でも、「ジェンダーレス」や「マンス

プレイニング」^{注3}といった言葉が広がりながら、企業経営や科学技術・研究開発領域での不均衡についても実情のデータを用いて議論されており、徐々に社会がアップデートされてきている兆しがあります。

科学技術とジェンダー

科学技術分野においては、女性技術者に機会が与えられることはまだまだ少ないのが現状です。総務省の「科学技術研究調査(2014)」によると、日本の女性研究者は欧米の半分程度^{注4}で、大きく遅れをとっています。学ぶ機会においても、多数の大学で女子差別や年齢差別などの不適切な入試が確認されたこと^{注5}や、都立高校の入試制度を話し合う検討委員会で男女の合格ラインに大きな差があったと取り上げられたこと^{注6}なども、記憶に新しい事例です。

科学技術領域の性別比が偏っていることは研究計画や実験の前提条件にも影響し、一般消費者の生活にもリスクを及ぼすことが示されてい

注3) 「man(男性)」と「explaining(説明・解説する)」を掛け合わせた用語。おもに男性が(相手を無知、または特定の分野に詳しくないと決めつけて)見下すように何かを解説したり、知識をひけらかしたりすることを指す言葉。

注4) <https://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka/topics/topics80.html>

注5) 一例として、東京医科大学での報告書
<https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/statement.html>

注6) https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2023/release20230911_02.html

注1) チョ・ナムジュ 著、斎藤 真理子 訳、筑摩書房、2018年

注2) <https://ja.wikipedia.org/wiki/ガラスの天井>

たとえば「ドラ娘システム」をアップデートしてみよう～テックコミュニティとジェンダー～

ます。薬の販売開始後に女性への副作用リスクが判明したり、自動車の衝突実験に妊婦を想定していなかったり、男性の運動視差のみ考慮して設計されたVRは女性にとって酔いやすくなっていたりなど、女性や性的マイノリティが考慮されていないことから生じる健康被害や機会の不平等に関する指摘は近年増えています^{注7}。

研究開発における性差に着目しながら技術革新を進めていくことは国際的な共通課題とされており、スタンフォード大学の女性科学史家ロンダ・シーピング教授によって提唱された「Gendered Innovations」^{注8}という概念が、EU（欧州委員会）の協力のもと展開されています。これにより高等教育や科学技術領域での女性の機会と、その中で取り扱われるテーマやデータにおける性差について、徐々に可視化され、各地域でのアクションも進みつつあります。また何よりも、2015年に国連が提唱したSDGs（持続可能な開発目標）の目標5には「ジェンダー平等を実現しよう」とあり、世界中の人々がこの課題に取り組んでいる状況です。

ITコミュニティとジェンダー

「〇〇女子」系ITコミュニティイベントのいくつかの形

2010年代の半ばには国内のITコミュニティでは「〇〇女子」「〇〇ガールズ」などのイベントが多数開催され、筆者（今村）がITコミュニティに興味を持ち始めたのもこのころでした。一方で、女性だけでコミュニティを形成するこ

注7) キャロライン・クリアド・ベレス 著、神崎 朗子 訳、『存在しない女たち』、河出書房新社、2020年
 注8) <https://genderedinnovations.stanford.edu/>

◆表1 3つのパターンとそれぞれのメリット/デメリット

パターン	メリット	デメリット
参加者と運営を女性のみ限定する	女性にとって安心安全な場所が確保される	女子のお茶会的な雰囲気になりがち
女性枠を設ける	女性エンジニアが参加したいコミュニティに入りやすくなる	女性エンジニアがアイドル的な役割を強いられる可能性がある
女性のエンパワメントを支援する	女性にとって安心安全な場所が確保される。多様なメンターによって技術の底上げが図れる	教わる/教える関係からハラスメントが発生してしまう可能性がある

とは「多様性」の観点からどうなのだろうか、と問題意識も芽生えつつありました。頭の整理を兼ねて、このころの「〇〇女子」系ITコミュニティイベントについて回顧し、筆者ならではのパターン分けを行ってみました（表1）。

「女性枠を設ける」パターンで気をつけたいのは、参加した女性エンジニアに対して性差に基づいた評価や扱いをすることです。たとえば「ドラ娘」はどうでしょう？ イベントでのライトニングトークにおけるタイムキーパーとして、時間が来ると銅鑼を叩く役割を「ドラ娘」と呼ぶコミュニティのミームが2000年代初頭ごろにありました。このような社会的性差による役割の固定は現代のコミュニティとして健全性が担保されているとは言い難い状況にあり、世界的なスタンダードからも古いバージョンのままであると考えます。

ITコミュニティと行動規範

海外のITコミュニティでは、マイノリティ（性別、人種、性的指向、能力、階級などにおける弱者）支援の文脈で、Rails BridgeやDjango Girls、Vue Vixensなどのように「女性のエンパワメントを支援する」活動が古くから存在します。これらのITコミュニティでは、メンターの性別は問われません。また、行動規範（CoC：Code of Conduct）の策定と徹底により教える/教わる関係でのハラスメントを防止しています。

Django Girlsに見るジェンダーへのあたらしい取り組み

筆者（今村）が運営に携わったDjango Girls Tokyoは世界各地に広がるDjango Girlsコミュニティの1つで、「プログラミングスキルを身につけることによる女性のエンパワメントを手



助けしよう」をミッションとして掲げています。ではなぜDjango Girlsの活動に共感し、支援したいと思うようになったのでしょうか？ それは当時の国内ITコミュニティとしてはまだ珍しかったCoCがすでに準備されていたからです。そのCoCで述べられていた「みんながお互いに心地よく過ごせる場にしましょう」という呼びかけは当時の筆者にはとても新鮮でした。

また、Django Girls Tokyoのイベントで用いられるCoCには「no/but」ではなく「yes/and」という一節があります。同じ場にいる人がお互いに「否定でもって応答しない」「相手の言葉を受け入れよう」「対話の場は常にオープンでいよう」といったことを守っていきましょう、とする一節です。このフレーズはこれまでほかのITコミュニティにはなく、社会で他者と関わるうえで大事なことが凝縮されているように感じ、たいへん感動したことを覚えています。また、この「yes/and」の精神はCode for AmericaのCoCにも書かれており、ほどなくしてCode for Japanの初期のCoCはそれをforkしたものだとなりました。

ジェンダーバイアスに対するシビックテックのチャレンジ

このように、社会やITコミュニティではさまざまな観点のもとにアップデートが増えつつあります。シビックテックコミュニティでも、CoCの改定やジェンダーバイアスについて取り上げたプロジェクトがあります。

行動規約(CoC)のアップデート

「CivicTechとジェンダー」というCode for Japan Summitでのワークショップをはじめ、2019年の筆者(今村)はジェンダーにまつわる議題・提案をハッカソンのプロジェクトやLTで実践する機会が多くありました。

その後、パンデミックの影響でオンライン化による交流機会が進められていた一方で、オンラインのテックカンファレンスやイベントで参

加者によるCoC違反とみられる事案が複数起きていました。シビックテックコミュニティは、あらゆる世代・性別・背景の方々のインタラクションによって、イノベーションとアンコンシャスバイアス⁹という諸刃の剣を持ち合わせていると認識しています。そのため、「より良いコミュニティとして維持するためにはどのような振る舞いやコミュニケーションが推奨されるか」というテーマをベースに、海外の事例調査をもとに、賛同者とCoCのアップデートに取り組みました。

この中で、具体的な違反事項を書き並べるだけでは読み手側がそれ以外の事象に対しての判断ができなくなる可能性があるのではないかと懸念や、抽象的に推奨される振る舞いだけでは参加者が混乱してしまうのではないかと壁にぶち当たりました。これらの課題に対処するためにCode for JapanのCoCでは「ハラスメントとは何か」「対象者は誰か」「どんな行動が求められるのか」「どんな行動が容認できないのか」といった観点でCoCを構成し、コミュニティメンバーとして推奨される行動や、抑止すべき行動について具体例とともに記載しています¹⁰。

またCoCを作るのみならず、カルチャーを醸成し行動変容を促すために、すべてのイベントでは参加者への説明や周知を徹底し、運営側でもセルフチェック行方などを実践しています。

「発言が終わらないメーター」の開発

2021年2月、日本オリンピック委員会(JOC)臨時評議員会で森喜朗元首相が「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかります」と発言し、ジェンダーバイアスではないかとの指摘があがりました。このとき、何かアクションを起こせないだろうかと、台湾・香港・韓国・日

注9) 「自覚しない、無意識の」を意味する「unconscious」と、「偏見、先入観」を意味する「bias」が組み合わさってできた言葉。無意識の思い込みなどと訳されます。

注10) <https://github.com/codeforjapan/codeofconduct>

たとえば「ドラ娘システム」をアップデートしてみよう～テックコミュニティとジェンダー～

本のシビックテックコミュニティのメンバーで集まり、緊急ビデオ会議を開きました。

この中で、「男性は喋りすぎていませんか?」「女性は黙ってしまっていないですか?」という観点で男女の会話量を可視化できる「who's talking?」というCode for AustraliaのWebアプリが紹介されました。「今の日本にこそ、こんなアプリが必要だ」と参加メンバーの意見が一致し、「発言が終わらないメーター」^{注11}という「発言時間を測って比較するストップウォッチ」のWebアプリ開発がスタートしました。10日ほどでリリースし、多言語化実装もなされました。

プロトタイプでは「“性差による認知バイアスに気づくための”ツールの提案」を目的としていたのですが、このアプリを世に出すことでフィードバックや応援を含め、ジェンダーに対するさまざまな立場からの多種多様なメッセージを受け取りました。たとえば、男女2択そのものへの是非や「性別の区別より、個人ごとの識別が必要」という意見、「発言の時間(量)ではなく、内容(質)に重きをおくべき」という提案などです。自分たちによって「これはとても良いことだ」と考えていても、あらゆる世代・性別・背景によって一筋縄ではいかないという学びが得られました。一方、その後コミュニティに加入してくれてきた若い世代の人たちが率先してジェンダーイシューに取り組む事例も増えてきたことは一筋の光ではないかと感じています。

私たちがアップデートできることはなんだろう?

ここまで、ジェンダーに関する課題やアップデートについて社会とテックコミュニティを中心にピックアップしてきました。ご自身が所属している組織やコミュニティをちょっとでも良くするアップデートの種として1つでも持ち帰っていただけたら幸いです。

また、コミュニティの運営側に関わっている

みなさんは、これからの安全で安心なコミュニティ運営の役割として次の問いに取り組んでみてはいかがでしょうか。

- ご自身のコミュニティにCoCはありますか?
- CoCに多様な意見を取り入れていますか?
- 参加者属性データをもとに改善をしていますか?

OSやアプリのアップデートは、1回ですべてのissueが解決する魔法ではありませんよね。ジェンダーに関する課題もまた、コミュニティの仲間たちと変化に気づき、必要な手立てを考え、実践しながら更新し続けなければならないものであると考えています。

今回は参考事例を紹介しましたが、良いアップデートのためによりよい方法があれば、ぜひプルリクエストいただけると幸いです。ここまで読んでくれたあなたなら、すてきな未来に向けた新たなアップデートへ一緒に貢献できると信じています。SD

より良いアップデートのためのチェックリスト案

- イベント運営などにおいて、性別によって役割が分担されていませんか
- 背格好から推測して「くん」「ちゃん」「彼」「彼女」と勝手に呼び分けていないでしょうか
- 代表者や意思決定機関の構成員は男性が担っていませんか
- 育休などの制度活用や子育てに関する配慮を受けているのはおもに女性ではありませんか
- 会合や懇親会の開催が夜ばかりになっていませんか
- 「女性らしさ」や「男性らしさ」にまつわる話題を他人に振っていないでしょうか
- 世界的なジェンダーに関する潮流との距離感はありませんか

注11) 現在はサービスを終了しています。